教養演習Ⅱ（秋期）　　吉田 雄司

授業概要

本演習では、日商簿記検定３級受験の指導をします。対象者は主に春期「教養演習Ⅰ」を受講した学生です。夏季休暇中に猛勉強をし、すでに日商簿記３級の予想問題は、解答可能になっていることが前提です。
試験勉強のコツは、学ぶ信念と反復学習です。「合格」という結果をいかに出すかに焦点を当てていきます。
授業は、検定試験に向けた総合問題を中心に解答手順を解説します。この「演習Ⅱ」は、次年度の「基礎演習」＝日商簿記２級合格にもつながる内容です。１年次に日商簿記３級合格、２年次に２級合格を、そして３年次には１級に合格へとつなげます。

授業計画

（注意）新型コロナのため授業内容の一部変更もあります。

第１回	ガイダンス（なぜ資格を取得するかの説明）、小テストを実施します。座席指定	
第２回	①商品売買、現金預金、手形、電子記録債権債務に関する会計処理	
第３回	②有形固定資産、その他取引、決算取引、伝票会計に関する会計処理	
第４回	③小口現金出納帳、手形記入帳、売掛金元帳・買掛金元帳の会計処理	
第５回	④商品有高帳（先入先出法・移動平均法）、伝票会計の作成（３伝票の記載方法）	
第６回	⑤財務諸表の作成：貸借対照表と損益計算書の構造を確認	
第７回	⑥精算表の作成：決算整理前残高試算表と決算整理事項を読み解くコツ	
第８回	⑦精算表の作成：決算整理事項の仕訳と転記の仕方（下書き用紙の書き方）	
第９回	中間試験　予想問題の実施　11月統一試験合格が目標	
第10回	①決算整理仕訳と合計残高試算表の作成	ネット試験で合格が目標
第11回	②決算整理仕訳と合計残高試算表の作成	
第12回	③決算整理仕訳と精算表の作成	
第13回	④決算整理仕訳と精算表の作成	
第14回	⑤決算整理事項と貸借対照表・損益計算書の作成	
第15回	⑥決算整理事項と貸借対照表・損益計算書の作成	
第16回	定期試験	

到達目標

・「日商簿記検定３級試験」の合格レベルに達すること。

履修上の注意

・秋期「中級簿記」を履修登録してください。
・11月の統一試験またはネット試験を受験すること。
・就職試験に関する指導を行います。例）ニュース検定試験、SPIテストなど実施します。

予習・復習

・『予想問題集』を３回転以上、繰り返すこと。

評価方法

・中間試験50%、定期試験50%で評価します。
・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

・教科書名：2022年度版ニュース検定公式テキスト&問題集　「時事力」基礎編(3・4級対応)
・著 者 名：日本ニュース時事能力検定協会　(監修)
・出版社名：毎日新聞出版

教養演習Ⅱ　　花崎 正晴

授業概要

本演習では、1990 年代から今日に至るまでの日本の経済社会のダイナミックな変遷を勉強します。このおよそ 30 年の間に、実体経済の低迷、気候変動問題の深刻化、経済社会のデジタル化の進展そしてコロナ危機など、日本の経済社会はさまざまな難問に直面し、対応を迫られてきました。このような事象の意味や背景を適切に理解することによって、将来的に社会で活躍する上での足がかりを作ることをこの演習の目的としています。基本的には、ゼミ生全員が毎回教科書の指定された箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	令和経済、波乱の幕開け
第 2 回	激動の平成経済
第 3 回	平成バブル崩壊と金融危機
第 4 回	世界金融危機
第 5 回	アベノミクスの挑戦と試練
第 6 回	デジタル革命の衝撃
第 7 回	気候変動と脱炭素
第 8 回	SDGs と ESG
第 9 回	国際的な地球温暖化対策の歩み
第 10 回	再生可能エネルギーの可能性
第 11 回	進む少子・高齢化
第 12 回	社会保障クライシス
第 13 回	ゼロ金利、デフレとの闘い
第 14 回	中国台頭と米国の漂流
第 15 回	グローバル経済と日本の役割
第 16 回	課題レポートの提出

到達目標

日本経済の特色や変遷、そして日本経済が直面する構造的な諸課題を理解することによって、将来の社会人として必要とされる基本的知識を修得するとともに、報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。また、適宜将来の就職活動に向けての心構えも指導する予定です。

予習・復習

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

- 教科書名：日経文庫『シン・日本経済入門』
- 著 者 名：藤井 彰夫
- 出版社名：日本経済新聞出版
- 出 版 年（ISBN）： 2021 年 4 月（ISBN 978-4-532-11436-7）本体 1,000 円＋税

教養演習Ⅱ　　李 相和

授業概要

この演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つことなど、今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習では、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つこと、特に、会計学関連の基礎的な考え方を習得することができるように指導する。

授業計画

第 1 回	本演習の進め方や評価方法
第 2 回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第 3 回	専門的な文章の読解力の向上①
第 4 回	専門的な文章の読解力の向上②
第 5 回	専門的な文章の読解力の向上③
第 6 回	専門的な文章の読解力の向上④
第 7 回	専門的な文章の読解力の向上⑤
第 8 回	文章の要約力とレジュメの作成①
第 9 回	文章の要約力とレジュメの作成②
第 10 回	文章の要約力とレジュメの作成③
第 11 回	各自のテーマによる調査発表と討論①
第 12 回	各自のテーマによる調査発表と討論②
第 13 回	各自のテーマによる調査発表と討論③
第 14 回	各自のテーマによる調査発表と討論④
第 15 回	各自のテーマによる調査発表と討論⑤
第 16 回	まとめ（レポート提出）

到達目標

この演習は、豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることを念頭に置きながら、会計学の基礎的考え方を向上させることを意図としている。

履修上の注意

- 毎回必ず出席してほしい。
- 演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。
- 就職試験に関する指導（ニュース検定試験などの実施）を行う。

予習・復習

- 配布資料を事前に目を通しておくこと
- 発表や講義の要点をまとめること
- 数回分の課題レポートを提出してもらう。

評価方法

レジュメの作成と発表（30%）、課題レポート（30%）、ゼミでの積極性（10%）などを総合的に評価する。

テキスト

- 開講時に指示する。
- 必要に応じて、資料を配布する。

教養演習Ⅱ　　一戸 真子

授業概要

コロナで世界中の人々が様々な試練を強いられている中、私たち人類は弛みない努力を続け、地球は今、大きな変革の時期を迎えつつあります。一方で、私たち人類を生み出している地球そのものにも種々の変化が生じており、様々な災害なども発生しています。演習では、今後テクノロジーの急速な変化や感染症の蔓延などにより、世界はどのように変化していくのかについて理解を深められるよう指導します。具体的には、今後私達の生活はどのように変わっていくか、社会はどのように変化していくのか、それらに伴い、どのような企業が求められていくのか、インベーションが必要となるかについて、人々の幸福の条件についても考えを深めていけるよう、ディスカッションやプレゼンテーションを行いながら指導していきます。

授業計画

第１回	人生 100 年の時代の到来
第２回	地球全体でヒト、モノ、カネ、ジョウホウが激しく動く時代の突入
第３回	言語、人種、肌の色、国籍もなく、皆地球人
第４回	テーマ　①　日本経済と世界経済
第５回	テーマ　②　国内政治と国際政治
第６回	テーマ　③　地域社会と国際社会
第７回	テーマ　④　労働・雇用
第８回	テーマ　⑤　健康・医療
第９回	テーマ　⑥　福祉・介護
第 10 回	テーマ　⑦　気候・環境
第 11 回	テーマ　⑧　食・スポーツ・休養
第 12 回	テーマ　⑨　教育・文化
第 13 回	テーマ　⑩　歴史・未来
第 14 回	テーマ　⑪　テクノロジーとイノベーション
第 15 回	テーマ　⑫　グローバリゼーションと幸福
第 16 回	試験

到達目標

- 地球全体で物事を考えられるようになる。
- 大きな変革の時期であることに理解を深め、イノベーションの必要性についても理解を深める。
- 幸福と経済の関係性に影響を与える諸要因について理解を深められる。
- コミュニケーション能力が向上する。
- プレゼンテーション能力が向上する。
- 書く能力が向上する。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎します。

予習・復習

毎回授業前に予習をし、振り返りのための復習を単元終了後に行うこと。

評価方法

発表点（25 点）、レポート点（25 点）、試験（50 点）

テキスト

- 教科書名：日経キーワード　2022－2023
- 著 者 名：日経 HR 編集部
- 出版社名：日経 HR
- 出 版 年（ISBN）：978-4891122010

教養演習Ⅱ　　薄井 和夫

授業概要

テーマ：マーケティングとスポーツマーケティングへの入門

基礎演習Ⅱでは、専門科目履修の準備ができるようにするために、マーケティング論とスポーツマーケティング論の入門的な内容を紹介し、皆さんで議論します。

この演習では、マーケティング、スポーツマーケティングの基本的な考え方と基礎概念を学び、現代社会で起きている様々な出来事のなかからいくつかの事例を検討し、さらに、自分で調査やプレゼンをするための基本的な考え方を学びます。

授業計画

第 1 回	基礎演習Ⅱの概要
第 2 回	基本的な考え方（1）マーケティングとビジネス、マーケティングと社会
第 3 回	基本的な考え方（2）スポーツをビジネス・マーケティングの視点から考えるとは
第 4 回	基礎概念（1）４つのＰ —— 一般のマーケティング論とスポーツマーケティング論
第 5 回	基礎概念（2）戦略の考え方 —— マーケティングとスポーツマーケティングへの応用
第 6 回	基礎概念（3）基本理念 —— 社会的マーケティング・コンセプトとは何か
第 7 回	事例研究（1）ガソリン自動車と電気自動車のマーケティング —— ソニーは自動車マーケティングの覇者になれるのか
第 8 回	事例研究（2）キットカットのマーケティング —— イギリス生まれのチョコレートが日本で成功する理由
第 9 回	事例研究（3）トヨタのオリンピック・マーケティング —— コロナ禍のなかでのオリンピック広告のあり方
第 10 回	事例研究（4）Ｊリーグのマーケティング —— 企業スポーツ、プロスポーツ、そして地域密着
第 11 回	応用篇（1）マーケティング・コミュニケーションの基礎としての関連性理論 —— プレゼンテーションを効果的にする方法
第 12 回	応用篇（2）自分で調査するために① ディズニーランドの調べ方
第 13 回	応用篇（3）自分で調査するために② 浦和レッズの調べ方
第 14 回	参加学生によるパワーポイント・プレゼンテーション（1）
第 15 回	参加学生によるパワーポイント・プレゼンテーション（2）

到達目標

◎マーケティング論、スポーツマーケティング論の基本を理解すること
◎現代のマーケティング、スポーツマーケティングのあり方を考えられるようにすること
◎効果的な調査とプレゼンテーションの考え方を身につけること

履修上の注意

◎教養演習は１限に設定されているため、かなり遅れてくる学生も見受けられますが、高校までの時間割に比べて決して早い時間というわけではありません。遅刻・欠席は厳禁です。
◎大学の学生番号に割り振られたメールは、演習や大学からの重要な情報がそのメールアドレスにきたり、課題をメールに添付して提出したりするということもしばしばありますので、必ず点検すること。
◎こんな質問をすると恥ずかしいと思って発言しない学生より、間違ってもいいから自由に発言する学生が望ましいと思います。勉強のための予備知識は全く要りませんが、説明をきちんと聞く力は必要です。
◎４年後に社会に出ていくにあたって、時事問題の知識は重要です。時事問題の確認なども行います。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、学生によるプレゼンテーションのための準備のために、文献やネットを自分で調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度（25%）、演習で出された課題の遂行の状況（25%）、最終期末レポート（50%）によって評価します。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配り、またインターネットで調査したウェブサイトを利用します。

教養演習Ⅱ　　大塚 浩記

授業概要

１年次の教養演習は，２，３，４年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは，何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく，学生自らが何らかの目的やテーマに対して，何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで，教養演習Ⅱでは学生のプレゼンテーションを前提とした演習を行う。その際の題材は，例年，学生が選択した興味関心のある事項としているが，話し合いの上。統一的なものにすることもある。また，就職に係わる情報は常に意識してもらうように心掛ける。この点で，上記とは別に時事問題に関する新聞記事等を使用した演習を行うこともある。

授業計画

第１回	演習での姿勢とレジュメの作成方法
第２回	テーマの選択と資料収集の方法
第３回	時事問題（夏季休業中の出来事など）を考える①
第４回	１回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第1ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第５回	１回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第2ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第６回	１回目のプレゼンに関係したその続きのテーマの検討
第７回	時事問題（その時点での出来事（新聞記事等））を考える②
第８回	２回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第1ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第９回	２回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第2ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第10回	時事問題（その時点での出来事（新聞記事等））を考える③
第11回	３回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第1ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第12回	３回目のテーマに基づくプレゼンテーション（第2ｸﾞﾙｰﾌﾟ）
第13回	課題レポートの作成についての説明（章立てと結論など） （可能であれば「パワーポイント」資料の作成を含む）
第14回	提出するレポートの途中経過の報告
第15回	修正したレポートの内容検討（と「パワーポイント」を使用したプレゼン）
第16回	定期試験（または定期試験に代わるレポート）

※　人数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

プレゼン用のレジュメを作成でき，それに基づいた質疑応答ができるようになる。

履修上の注意

・人数が少ない場合には，会計ないし経営に関する文献の輪読やレポートを交える。
・講義ではなく演習なので，聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。
・就職活動における「教養」は，上記のような時事についての理解のみならず，適性試験（言語・非言語）という形式で問われることが多いため，適宜，そちらも指導する。
・全員参加での課外授業を実施する場合がある（他学年・他ゼミと合同のこともある）。

予習・復習

毎回ではないが，事前に下調べを行い，発表のためのレジュメを作成してくる。
プレゼン後にレポート提出のための修正を行う。

評価方法

平常点４５％・定期試験（または定期試験に代わるレポート）５５％程度で評価する。
なお，既定の出席回数に満たない場合には，原則として単位を認定しない

テキスト

ゼミ生が選ぶテーマによっては使用するかもしれないが，特に使用しない予定。

教養演習Ⅱ　　佐藤 正勝

授業概要

佐藤正勝ゼミでは、次の①、②及び③の点を指導します。
[①] 皆さんの就職に大きな影響をもつ経済記事等（例：SDGs）について、班ごとに原因・問題・解決策を調査し、検討し、発表し、議論します。例を挙げると、最近、暴風雨が多いです。気候変動に対処するための種々の具体的な方策を考えて、発表し合いましょう。
[②] 卒業後の目標、例えばどのような職業に就くといいのか、一緒に考えてみましょう。将来の目標が決まると、勉強が自然にどんどん進みますので、いい会社に入れます。このことは、佐藤ゼミの先輩が証明しています。そこで、ゼミ生の皆さん、将来の目標を設定しましょう。一緒に、大谷翔平選手のマンダラチャート(授業で説明します)を参考に、大学 1 年の、大学全体の、社会人の、一生の目標考えます。常に一定の目標を持って、勉学や就職活動をすると、どんどん進みますし、採用面接でのアピールにもなります。
[③] 皆さんは、大学生になりました。「考える」大学生になりましょう。佐藤正勝ゼミのゼミ訓は、２つ、「なぜ？なぜ？なぜ？」と「だから何だっつうの？」です。謎めいていますね。楽しみにしていて下さい。

授業計画

第 1 回	ガイダンス（自己紹介、授業の進め方全般、資料配付等の説明）
第 2 回	前提事項の説明：発表資料の読み方、分析の仕方、プレゼンテーションの仕方等の説明
第 3 回	第四テーマ(各班ごとに異なるテーマ)について、現状、問題点、解決策の調査・検討。
第 4 回	第四テーマについて、班ごとに、議論し、意見の相異を調整し、まとめる。
第 5 回	第四テーマについて、発表し、議論する。
第 6 回	就職試験対策：配付資料に基づいて、学修し、テストし、就職試験に備える。
第 7 回	第五テーマ(各班ごとに異なるテーマ)について、現状、問題点、解決策の調査・検討。
第 8 回	第五テーマについて、班ごとに、議論し、意見の相異を調整し、まとめる。
第 9 回	第五テーマについて、発表し、議論する。
第 10 回	就職試験対策：配付資料に基づいて、学修し、テストし、就職試験に備える。
第 11 回	第六テーマ(各班ごとに異なるテーマ)について、現状、問題点、解決策の調査・検討。
第 12 回	第六テーマについて、班ごとに、議論し、意見の相異を調整し、まとめる。
第 13 回	第六テーマについて、発表し、議論する
第 14 回	就職試験対策：配付資料に基づいて、学修し、テストし、就職試験に備える。
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポートの提出

到達目標

大学生として学修するためには、その前提として、①早寝・早起き・ゼミ提出物等の期限を守る生活習慣が規律正しく実行できること、②将来の目標を何か一つ持つこと、が必要です。それらの前提を本ゼミで十分に養って、③大学での諸科目を学修するという最重要事項を達成することを目標としています。

履修上の注意

到達目標の①の観点から、授業への出席は、もちろん、宿題の提出期限の遵守は、とても重要です。社会人になったら、会社を欠勤したり、上司の指示に遅れて仕事をすることなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。到達目標の②の観点から、（大谷翔平選手で有名になった）マンダラを使用して、人生の目標設定が可能となるように、指導します。

予習・復習

予習は、①SDGs の配付資料について、現状、問題点、解決策等を調べること、②自分の目標は何か、を考えてみること、③マンダラチャートに、自分がやってみたいことを記入すること、復習は、（作成担当ゼミ生から送信された）授業のポイントを、熟読して、授業内容の理解をさらに深めること、です。

評価方法

レポート、発表等への配点が７０％、その他チェックテスト等(就職試験のテストを含む)が３０％の配点です。

テキスト

・教科書名：なし（授業で独自資料を配布します）
・著 者 名：出版社名：出 版 年（ISBN）：

教養演習Ⅱ　　反田 和成

授業概要

本演習では、受講生には 2～3 名のチームを組んでもらい、事例研究に対するグループディスカッションやグローバル企業における経営分析のプレゼンテーションなど、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とする。

また、新聞、雑誌などの教材によって経済・経営の基礎を学ぶことで、社会人になった後でも活用できるよう指導する。さらに、学外授業で実践的な経営手法を体感することで、現実の経営事象を理解する力を身に付けることを目指している。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	プレゼンテーションとは何か、関心のあるグローバル企業の分析項目
第 3 回	プレゼンテーション成功の秘訣
第 4 回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議①
第 5 回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議②
第 6 回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議③
第 7 回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議④
第 8 回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議⑤
第 9 回	経済新聞、ビジネス雑誌の読み方
第 10 回	経済新聞、ビジネス雑誌のトピックをレポートにまとめる
第 11 回	学外授業
第 12 回	学外授業に関するレポートと討議
第 13 回	グロバール企業の分析に対するプレゼンテーションと討議
第 14 回	グロバール企業の分析に対する修正版プレゼンテーションと討議
第 15 回	グロバール企業の分析に対する最終プレゼンテーション
第 16 回	定期試験

到達目標

- 大学生としての基礎力である「書く、伝える、話す」を修得する。
- 問題、課題を抽出し解決する能力を身につける。
- 大企業２社の経営内容を比較分析し、パワーポイント資料にまとめて発表することで、企業の分析能力とプレゼンテーション力を修得する。
- プレゼンテーションやレポートの発表や質疑応答を通じて、ファシリテーターとしてのノウハウを身につける。

履修上の注意

- 問題意識を持って質問する、或いはグループワークにおいて、積極的に発言して議論すること。
- 予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。
- 学外活動を行う予定がある。
- プレゼンテーションやレポートの発表者以外の学生は質問或いは感想を述べるなど、必ず発言すること。

予習・復習

- 事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- 授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。
- 毎回授業後は復習することで、理解を深めること。

評価方法

- 授業への参加意欲（20%）、課題提出（30%）、定期試験（50%）で総合評価します。
- 授業態度が不良の場合は「不可」とします。

テキスト

- テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

教養演習Ⅱ　張 英莉

授業概要

本演習の目的は、教養演習Ⅰと同様に、１年生の基礎学力の向上と大学生として必要な知識の蓄積にある。プレゼンテーション、共同研究を通して、文献の調べ方、報告内容のまとめ方、レジュメの作り方、発表時の言葉遣いなどをマスターし、思考力、表現力、協調性、コミュニケーション能力の向上を目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明）
第 2 回	春期を振り返る：何が身につき、何が不足しているのか
第 3 回	個別テーマ：目標設定①――大学でどんなことを学びたいのか
第 4 回	個別テーマ：目標設定②――将来どんな仕事をしたいのか
第 5 回	統一テーマ：10 年後浮かぶ業界、沈む業界
第 6 回	統一テーマ：SDGｓとは何か
第 7 回	統一テーマ：行動経済学とは何か①――解説
第 8 回	統一テーマ：行動経済学とは何か②――応用
第 9 回	統一テーマ：行動経済学とは何か③――映像
第 10 回	グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題①
第 11 回	グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題②
第 12 回	グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題③
第 13 回	個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由）
第 14 回	個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由）
第 15 回	個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由）
第 16 回	期末試験

到達目標

①テキストの内容を理解し、要点を整理・発表できるようになる。
②経済学・経営学の基礎知識を身につける。
③履修者が自分の意見を他人に分かりやすく正しく伝えられるようになる。

履修上の注意

無断欠席・遅刻はしないこと、議論に積極的に参加することを求める。

予習・復習

与えられた課題をしっかりと準備してください。

評価方法

発表内容、議論への参加度、課題への取り組み状況、期末試験を総合して評価する。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

教養演習Ⅱ　　広瀬 明

授業概要

経済や経営の場では、様々な問題に直面する。経済学や経営学は、そうした問題に対処するためにどうしたら良いかについて、多くの知識を蓄えるための学問である。多くの問題は、過去に発生した同種の問題にどのように対処してきたかについて学べば、解決する。その時に必要なのが、データ処理である。過去の状況と現在のそれとは大きく異なる。過去にあって成功した事例も、現在に置き換えればうまく機能しないこともある。それは何故か、そして、ならばどのようにすれば良いか、については、データ集めで情報処理をする必要がある。本演習では、その導入の部分について、考察したい。

授業計画

第 1 回	はじめに（データ処理の有効性と有用性）
第 2 回	パソコンはどのようにして動いているのか
第 3 回	基本ソフト（OS）とアプリケーションソフト
第 4 回	表計算ソフトとは何か
第 5 回	Excel でできること、できないこと
第 6 回	まずは、表を作成しよう
第 7 回	続いて、グラフを作成しよう
第 8 回	どのデータにはどのグラフが効果的か
第 9 回	相対番地と絶対番地
第 10 回	コピーを有効に使おう
第 11 回	金利計算が簡単にできる方法
第 12 回	単利と複利
第 13 回	返済金を決定するのは、金利と返済期間
第 14 回	国債の利回りの計算方法
第 15 回	70 の法則
第 16 回	試験

到達目標

本演習では Excel を用いた情報処理ができるかどうか、が重要なテーマである。データを示されて、何を計算しどのように計算するのか、が的確に理解できれば目標達成である。

履修上の注意

演習を進めるにあたって、次の演習内容はその前の演習内容を理解していることを前提に進めることになる。欠席はしないようにすること。やむを得ず欠席する場合は、前の演習の内容を理解しておくこと。

予習・復習

つねにパソコンのExcelに触れておくことをお勧めする。演習で用いたもの以外のデータを処理してみることである。

評価方法

試験で、データを示し、的確にデータ処理できるかどうかを確認する。

テキスト

今のところ考えていないが、ブルーバックスあたりの新書を教科書に指定することも考えている。

教養演習Ⅱ　　福永 肇

授業概要

社会科学を学ぶ学生として最低限必要な「現代社会」、「経済経営」への基礎的知識と考え方を指導します。授業の内容として現在は以下を授業計画にしています。しかし詳細はこの演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます（したがって変更になる可能性があります）。

この授業は座学形式の「講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス　授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の説明等
第 2 回	自己紹介（与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練）
第 3 回	基礎数字①：（日本と世界の）人口、面積、GDP、国連予算分担金、ODA、軍事費
第 4 回	基礎数字②：日本の人口動態：少子化・高齢化・人口減少・生産年齢人口の激減
第 5 回	複利計算の暗算法（Rule of 72）
第 6 回	「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の発表と提出①
第 7 回	英語①：専門用語（経済用語、会計用語等）と英単語。
第 8 回	英語②：日本と外国との位取り（数字 4567890123 を日本はどう読むか、英語ではどうか）
第 9 回	お金を考える①：ライフステージとお金の効用
第 10 回	お金を考える②：お金をいくら稼ぐか
第 11 回	お金を考える③：金の正しい使用方法
第 12 回	お金を考える④：お金を貯める
第 13 回	「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の発表と提出②
第 14 回	お金を考える⑤：　お金を増やす
第 15 回	お金を考える⑥：　お金を貸す、あげる。
第 16 回	総括。

到達目標

① 経済経営学部に学ぶ学生として最低限必要な「経済経営数値」「英語での専門用語」への基礎的知識を身につける。
② テーマ「お金を考える」を通じて、物事に対する自分の考えを整理整頓し、思考方法を修得する。

履修上の注意

この演習では「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」が課されます。「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」については、「教養演習Ⅰ（福永肇）」のシラバスを参照してください。

予習・復習

① 教員から指示された次回授業への準備（事前に調べておくことなど）。
② 「新聞記事のスクラップ・ブック＋コメント」の作成と発表準備

評価方法

新聞スクラップ・ブックの発表と提出（30%×2）、ゼミでの毎回の議論への貢献（40%）を予定している。詳細は授業で説明します。
なお、毎回の発表に対してはフロアの学生（発表者以外の学生）による評価が行われるが、これは発表した学生自分を成長させるための参考データとし、成績評価では勘案しない。

テキスト

テキストは授業時に紹介する。資料、参考資料は配布する。

教養演習Ⅱ　　文 智彦

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになり、自分の将来像を描けるようになって欲しい。

授業計画

第１回	自己紹介の文章を作成し報告する。 履修計画を立てる。
第２回	本演習の概要
第３回	大学に入って何を学びたいかを考える。
第４回	文献を読もう
第５回	文献を読もう
第６回	文献を要約しよう
第７回	文献を要約しよう
第８回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第９回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第 10 回	自分の適性を知り、将来の進路について考える
第 11 回	自分の適性を知り、将来の進路について考える
第 12 回	プレゼンテーション資料の作成
第 13 回	プレゼンテーション資料の作成
第 14 回	プレゼンテーション
第 15 回	プレゼンテーション
第 16 回	振り返り

到達目標

・自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
・政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知る。
・大学での学び方を体得する。
・自分の将来について考える。

履修上の注意

１年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。 このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取組み、課題の提出状況、レポートなどにより総合的に評価する

テキスト

指定しない

教養演習Ⅱ　　村田 嘉弘

授業概要

本学のデータサイエンス科目群にはこれからの情報社会において必要な知識・技能を修得するための科目が揃っていますが、科目として提供されていない分野があります。それは情報セキュリティ分野です。ＤＸ（Digital Transformation）や Society5.0 などにより変革された先端情報社会を安心安全な状態で過ごすには、情報セキュリティの知識は必要不可欠です。そこで、この教養演習Ⅱでは、将来の進路に関わらず、常識としての情報セキュリティを体系的に学びたい方向けに、教科書や資料を輪読する方式で、インターネットの仕組みと情報セキュリティについての知識を提供いたします。

授業計画

第 1 回	はじめに（教養演習Ⅱの目標と進め方：情報セキュリティとは）・自己紹介
第 2 回	セキュリティの概念と対策の方針①（情報セキュリティ７要素・ガイドライン・リスク）
第 3 回	セキュリティの概念と対策の方針②（情報資産・脅威の種類・脆弱性・人為的不正）
第 4 回	インターネットの仕組み①（通信ネットワーク）
第 5 回	インターネットの仕組み②（通信プロトコル）
第 6 回	Web サービスの仕組み①（HTML 文書、Web サーバとクライアント）
第 7 回	Web サービスの仕組み②（HTTP、Web アプリケーション）
第 8 回	Web サーバに対する攻撃と防御
第 9 回	データベースサーバの仕組み
第 10 回	データベースサーバへの攻撃と防御
第 11 回	電子メールの仕組み
第 12 回	電子メールサーバへの攻撃と防御
第 13 回	サーバへの各種攻撃と防御
第 14 回	標的型攻撃
第 15 回	総合的な対策
第 16 回	まとめ

到達目標

・インターネットの仕組みを理解する。
・情報社会においてはどのようなリスクがあるかを知る。
・情報セキュリティ対策として具体的にどのようなことを行えばよいのかを理解する。

履修上の注意

コンピューターに関し一定の知識を求められるので、コンピューターに関する何かの科目を履修済みか履修中である方が好ましいです。

予習・復習

予習：教科書や配布プリントの次回の内容に目を通しておいてください。
　　発表者は、内容の説明ができるように準備しておいてください。
復習：演習で学んだ内容を復習しましょう。

評価方法

発表態度（40%）・期末レポート（６０%）に基づき評価します。合計 100 点のうち 50 点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が 10 回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

・教科書名：図解即戦力　情報セキュリティの技術と対策がこれ１冊でしっかりわかる教科書
・著 者 名：中村行宏・若尾靖和・林静香
・出版社名：技術評論社
・出 版 年（ISBN）： 2021 年５月２１日（978-4-297-12106-8）

必要に応じてプリントを配布します。

教養演習Ⅱ　　森 雅俊

授業概要

大学に慣れて１年秋季に入り。これからの大学で学ぶべき、社会や企業や情報技術の知識を身に付けながら、自分が学ぶべきことを考えます。また、この大学には、データサイエンス科目群があり、私はこの科目を担当していますので、興味のある学生向けに、ITC や AI（人工知能）の勉学に必要な知識、技能など基本となることを座学と演習で学びます。「演習」（ゼミ、ゼミナール）というのは大学で初めて登場する授業形式です。学生が自ら学習活動を行う授業になります。グループ学習を取り入れて、学生には、それぞれ発表する機会を作ります。課題提出、発表などを楽しく行って行きます。（PC 演習室を使用する予定です）

授業計画

第 １ 回	オリエンテーション
第 ２ 回	自己紹介　（自分で説明する資料を作成してくる）
第 ３ 回	大学生活で何を得たいかを考える
第 ４ 回	ITC（情報技術）に関する情報収集（書籍）…学内図書館、文献ネット検索
第 ５ 回	テーマの決め方と情報収集の方法
第 ６ 回	レポートの書き方
第 ７ 回	最近の ITC における注目のテーマを新聞、雑誌、書籍、インターネットから選び発表するー１
第 ８ 回	最近、ITC や AI のテーマを新聞、雑誌、書籍インターネットなどから選び発表するー２
第 ９ 回	Amazon　AWS のクラウドコンピューティングの学習―１
第 10 回	Amazon　AWS のクラウドコンピューティングの学習―２
第 11 回	ITC（情報通信技術）を使った新しいビジネスを調べる
第 12 回	情報通信技術を使った新しいビジネス事例を調査する
第 13 回	AI（人工知能）各自が選択した新しいビジネス事例をレポートにまとめる
第 14 回	新しいビジネスモデルについて発表する
第 15 回	グループワークとして、AI を使ったビジネスモデルを考える
第 16 回	グループ毎に発表し、質疑応答する

到達目標

本演習の目的は、大学生として大学で学ぶ意味や目的を考え、理解すること。そして、学習する基礎となる思考力、情報取集力、読解力、記述力、プレゼンテーション能力を高める。その方法として、インターネット、新聞、雑誌、書籍などから情報を収集し、情報を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、人はどう判断するかなどについて知る能力を蓄えることである。ITC（情報通信技術）を活用して生活や仕事に生かせる能力を身に着ける基礎を築く。

履修上の注意

１）病気などの場合を除いて，毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は，メールで事前に連絡してください。遅刻の場合は理由を説明してください。
２）演習のメンバーの意見を理解し，それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。
３）パソコンの Word, Excel, PowerPoint, メールを使用する。

予習・復習

・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
・NHK 高校講座「政治経済」「数学Ⅱ」を事前に学習することが望ましい。

評価方法

小テスト、レポート、発表等への配点が８０％、授業での発言、貢献等の積極性が 20%の配点です。

テキスト

・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

教養演習Ⅱ　　大江 清一

授業概要

本演習では日本の経営をより深く理解するための準備として、戦後史を中心とした日本経済の変遷と特質を学びます。日本経済は日本的経営の環境要因であり、日本の企業経営が日本経済を支えているという点において、経済と経営の関係は相互に不可分といえます。

経営学は生きた学問として身につけなければなりませんが、歴史的視点を加えることも重要です。日本的経営の環境要因としての日本経済は、過去から積み重ねられた歴史的産物であり、時代の一区切りとして戦後日本経済の移り行きを経営環境の変遷という視角から考察することは、経営学を歴史的かつマクロ面から理解する上で有益と考えられます。

国内外における銀行、メーカー、商社 3 業種での講師の勤務経験を生かして講義を行います。最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込みます。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは必須であり、講師は強くこれを奨励します。

授業計画

第１回	ガイダンス ―経済と経営―
第２回	日本経済の発展(1) ―占領期から復興期―
第３回	日本経済の発展(2) ―高度成長期―
第４回	日本経済の発展(3) ―国際化と経済摩擦―
第５回	日本経済の停滞(1) ―バブル崩壊―
第６回	日本経済の停滞(2) ―構造改革の試み―
第７回	日本経済の構造問題(1) ―日本的経済システム―
第８回	日本経済の構造問題(2) ―少子高齢化と労働市場―
第９回	日本経済の構造問題(3) ―社会保障制度の概要―
第 10 回	日本経済の改革(1) ―日本の農業改革―
第 11 回	日本経済の改革(2) ―アベノミクスと成長戦略―
第 12 回	経営環境としての日本経済(1) ―戦後日本経済史と日本的経営―
第 13 回	経営環境としての日本経済(2) ―日本の産業構造と経営戦略―
第 14 回	経営環境としての日本経済(3) ―日本の労働市場と日本的労務管理―
第 15 回	演習のまとめ
第 16 回	期末試験

【注意】対面授業、オンライン授業に関わりなく、課題レポートは 15 回全て提出すること。

到達目標

本演習の到達目標は、履修生が戦後日本経済の変遷と特質を経営学的な視点から修得することです。本演習を通して経済と経営の不可分な関係を認識するとともに、歴史的観点から経済および経営事象を捉えることに習熟できれば、将来、履修生が企業を中心とする組織に属した際に直面するであろう様々な環境変化の本質をより的確に判断する能力が得られると考えます。

履修上の注意及び予習・復習

演習で取り上げるテーマをもとにレジメの該当箇所について議論する場合、履修者は積極的に参加することが求められます。演習に参加するにあたっては、Teams に貼付するレジメを読んでおくことが必要となります。遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮します。

評価方法

毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。